

# 「建築を永く使い続けること」展

近・現代建築のリノベーション／北海道の実施例から

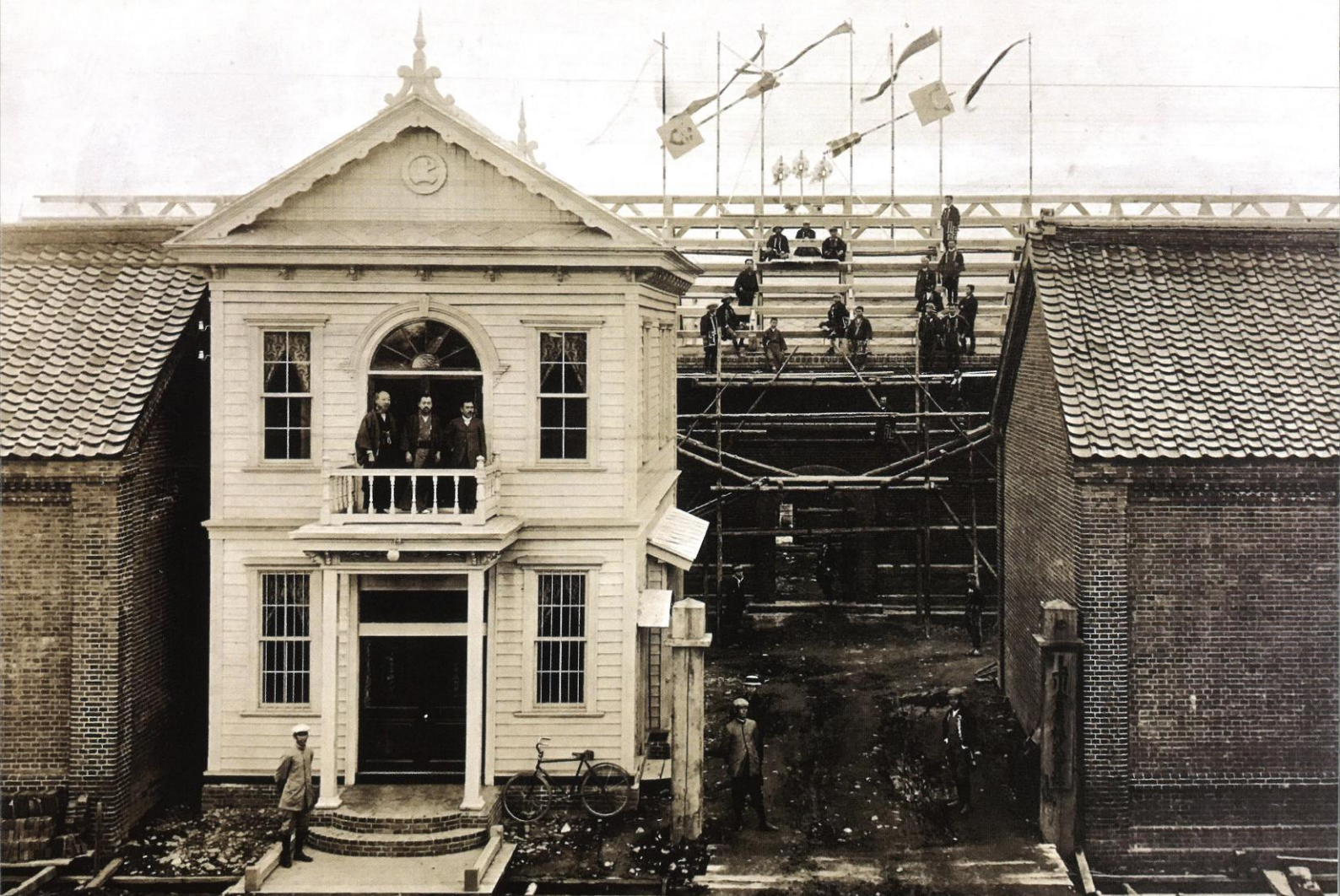
EXHIBITION OF RENOVATION ARCHITECTURE

2017年6月3日(土)～7月2日(日)

10:30～18:30(期間中無休) 入場無料

会場／中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー

旭川市宮下通8丁目3番1号(JR旭川駅東口) TEL0166-69-5858



2007年、旭川家具工業協同組合は「旭川・家具づくりびと憲章」を策定、その中で、これからの家具は「修理して永く使いつづけられるようにする」べきことを宣言しました。本年、第10回国際家具デザインフェア旭川(IFDA)を迎えるにあたり、この思想が建築においても大変重要な考え方であるという立場から、北海道におけるその具体的な実践例を図面、写真、模型などでご紹介することとしました。旧国鉄車両工場が市民活動交流センターに、煉瓦倉庫がデザインギャラリーに、隣町東川では小学校が文化芸術交流センターに、札幌では旧道立文書館が道産菓子販売の路面店に、など各地で多くの好例が生まれています。こうした事例が増えつつあるのは、建築の補強・改修の技術革新を背景に、遂にスクラップ・アンド・ビルドの時代が終焉を告げ、地域における「時の積み重なり」を可視化する建築文化が成熟してきた結果とも言えるでしょう。本展が、時を超えて生き続けるストックとして建築を見直す契機になれば幸いです。

特別展示

- 「六冬の群像-市庁舎の境界を解く」日本建築学会北海道支部2016年度卒業設計優秀作品 金賞受賞作品 制作者：佐藤優太(北海学園大学工学部建築学科卒業) 制作者の出身地旭川市の赤レンガ市庁舎リノベーション案。塔状部分を構造補強するために各階の執務空間を増床、低層部分には多様な路地空間や広場を巡らせている。市民生活を支援し、活動や交流を促進させる提案が現実味を持って丁寧に描かれている。
- 「旭川総合庁舎構造模型」「旭川市総合庁舎耐震補強案模型」 □「佐藤武夫」頭像 山内壮夫 作 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 所蔵
- 「旭川赤レンガ市庁舎夜景」 撮影：佐々木育弥

北菓楼札幌本館

所在：札幌市中央区北1条西5丁目  
 所有：株式会社 北菓楼  
 用途：北菓楼札幌旗艦店(菓子販売及びカフェ)  
 規模：建築面積537㎡、延べ床面積1,351㎡、4階建  
 構造：鉄筋コンクリート造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造  
 〈直近の改修〉  
 設計：竹中工務店、安藤忠雄建築研究所、店舗什器配置設計 西島設計  
 施工：(株)竹中工務店／建築、(株)三鉦建設、(株)東洋建設工機／設備

来歴

1926年に北海道庁建築技師・萩原惇正らの設計により、北海道廳立図書館として煉瓦造(一部鉄筋コンクリート造)、6階建が建設された。1967年から1977年までは道立美術館三岸好太郎記念室、引き続き、1983年まで道立三岸好太郎美術館、更に2014年までは北海道立文書館別館として使われた。改修では、道路側2面の外壁に耐震補強を施し、内部に菓子店舗を挿入した。札幌の街並みに歴史的建築の表情が残され、内部でも既存のレンガ壁を一部露出させて新築部分と対比させている。北海道赤レンガ建築賞、DSA日本空間デザイン賞、SDA Award、グッドデザイン賞、ACA賞。

丘のまち交流館 bi.yell

所在：上川郡美瑛町本町  
 所有：美瑛町  
 用途：コミュニティ施設(ギャラリー、カフェ、プレイルーム他)  
 規模：建築面積642㎡、延べ床面積1,475㎡、地上2階、地下1階建  
 構造：鉄骨造  
 〈直近の改修〉  
 設計：小澤丈夫、小澤エリ子、宮城島崇人、菊池規雄／建築、福本雅之、樹田洋子、山脇克彦／構造、三好健司／設備、山本博之／照明  
 施工：(株)清水組

来歴

元は美瑛町中心部にあった鉄骨造2階建てスーパーマーケット。廃業後、町が買い取り、町民のためのコミュニティ施設として復活させた。大規模改修にあたり採用した、新たな鉄骨大屋根で旧建物を覆う「鞘堂(さやどう)」の手法が特徴。新しい屋根が積雪荷重を負担し、入れ子となった旧建物の屋根スラブを撤去して軽量化を図ることにより耐震性を確保した。2重の構造から必然的に生まれる「狭間の空間」を採光で演出、効果を生んでいる。北海道赤レンガ建築奨励賞。

旭川市市民活動交流センター CoCoDe

所在：旭川市宮前1条3丁目  
 所有：旭川市  
 用途：市民活動交流センター(会議室、多目的ホール、ギャラリー、事務室他)  
 運営：特定非営利活動法人 旭川NPOサポートセンター  
 規模：建築面積1,194㎡、延べ床面積：1,656㎡  
 構造：市民活動支援棟およびホール棟：鉄筋コンクリート造、鉄骨造、一部煉瓦造、共用ロビー(渡り廊下含む)：鉄骨造  
 〈直近の改修〉  
 設計：ノア・柳JV／建築、南山田設備設計事務所／設備  
 施工：畠山・多東JV(市民活動支援棟)、新谷・北建JV(ホール棟)、吉宮・西館JV(共用ロビー)

来歴

二つの棟とも元は、明治期に北海道官設鉄道技師・田邊朔郎(琵琶湖疎水の発案者として有名)が設計した鉄道用施設(1899年竣工)。現在の市民活動支援棟は鍛冶工場、ホール棟は旋盤工場であったが、国鉄時代は木機職場として使われ、1987年の国鉄の民営化に伴いJR北海道に移管された。1998年に着工した旭川駅周辺開発事業「北彩都あさひかわ」の中で保存・活用が検討され、2010年、現在の形に改修された。登録有形文化財(文化庁)、近代化産業遺産(経済産業省)、2014年度旭川市景観賞(旭川市)。

蔵ら(KURARA)

所在：上川郡愛別町本町  
 所有：愛別町  
 用途：コミュニティホール  
 運営：愛別商工会  
 規模：建築面積、延べ床面積共に427㎡、平屋建  
 構造：木骨石造(一部集成材により構造補強)  
 〈直近の改修〉  
 設計：(株)柴滝建築設計事務所  
 施工：株式会社三浦組

来歴

1924年、兼七愛別酒造合名会社が清酒「北泉」を貯蔵する蔵として建設した。後に大雪山酒造株式会社となり、清酒「大雪山」の貯蔵庫となった。1946年、愛別村農業会(現・愛別町農業協同組合)の所有となり、米の貯蔵庫として使用。2000年、愛別町が取得し、コミュニティホールに改修した。建物の外壁全体は札幌軟石、窓回りに美瑛軟石を用いた木骨石造。改修では中央の柱を撤去して集成材の添え柱と梁で門型補強し、ホール空間を確保した。町の中心部にあるので町民の交流や情報発信の拠点として機能している。



北菓楼札幌本館／photo:高崎建築写真工房



丘のまち交流館 bi.yell／photo:阿野太一



旭川市市民活動交流センター CoCoDe



蔵ら(KURARA)

黒松内町立黒松内中学校

所在：寿都郡黒松内町  
 所有：黒松内町  
 用途：中学校(運営 黒松内町教育委員会)  
 規模：延べ床面積2,644㎡、2階建て  
 構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造  
 〈直近の改修〉  
 設計：アトリエバンク(構造：金箱構造設計、環境アトバイザー：北方建築総合研究所)  
 施工：田中組・伊藤組土建・スガワラJV

来歴

黒松内中学校は1947年に管内3分校で開校、1949年、現在地に独立校舎が開設された。1978年にRC造で建て替えられたが、2005年に環境省学校エコ改修及び環境教育事業モデル校に認定された。中廊下型2階建て校舎の屋根と床の一部を解体、ガラス屋根を架けて生徒のための多目的な吹き抜け空間を創出した。生徒数の減少により生まれた余剰面積を再構成して有効活用、適切な採光と通風が環境負荷を削減し、「減築」による軽量化が耐震性能を向上させた。2007年の改修後は校舎が環境教育の生きた教材となっている。日本建築学会作品選奨、日本建築家協会環境建築賞優秀賞、北海道建築賞、北海道赤レンガ建築賞。

東川町文化芸術交流センター

所在：上川郡東川町北町  
 所有：東川町  
 用途：各種学校(東川町立東川日本語学校)、美術館(織田コレクション、貸ギャラリー)、飲食店(カフェ、キッチン)、旅館(留学生等宿泊)。  
 規模：建築面積3,024㎡、延べ床面積4,220㎡  
 構造：本棟：鉄筋コンクリート造2階建、講堂棟：鉄骨造1階建、食堂棟：木造平屋  
 〈直近の改修〉  
 設計：小篠隆生、(株)ドーコン  
 施工：(株)高組・小岩JV(宿泊棟)、新谷・吉宮・小岩・松井 JV(本棟、講堂棟、食堂棟)

来歴

元は1898年に開校した東川小学校校舎。その後、増改築が同じ敷地で繰り返されたが、2014年に町内の別敷地に新校舎が建設され移転した。残された校舎は街の中心部に立地し、多くの町民の母校でもあることから保存・活用することになり、大規模改修を施して町の文化芸術交流拠点に生まれ変わった。典型的な片廊下型学校建築の構成を残しながら、多様な用途に対応できる空間が創出された。町が公有化を進めている「織田コレクション」や町内の作家の作品などを利用しながら、様々な企画展示が行われている。

蔵囲夢

所在：旭川市宮下通11丁目  
 所有：上川倉庫株式会社  
 用途：事務所、倉庫、飲食店(大雪地ビール館)、物販店(インテリ二)、ギャラリー(コレクション館)、練習場(リハーサルホール)  
 規模：延べ床面積：1,441㎡、事務所棟のみ2階建、他は全て平屋建  
 構造：事務所のみ木造。他5棟は上川倉庫型煉瓦造  
 〈直近の改修〉  
 設計及び施工：(株)竹中工務店

来歴

元は旭川駅に隣接する煉瓦造の上川倉庫群(ただし、宮下通に面した事務所棟(1913年)は切妻瓦屋根、木造下見板張り洋館)。他の煉瓦造は1900年から1913年にかけて建てられた倉庫群で、鉄道線路側の外壁に開口部を持つ。倉庫としての機能を終えた後も、所有者の「次世代に繋ぎたい」という強い意志に下、保存が図られ、市民や観光客に旭川の歴史の一断面を語る街区となっている。デザインギャラリーは1997年、外壁煉瓦壁を保存し、内側を鉄筋コンクリート壁で補強改修した。全7棟が登録有形文化財(文化庁)。

旭川市公会堂

所在：旭川市常磐公園内  
 所有：旭川市  
 用途：公会堂  
 運営：旭川市民文化会館運営審議会  
 規模：建築面積：1,440㎡／延べ床面積：2,495㎡、地上3階 地下1階建、楽屋棟：平屋建  
 構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造  
 〈直近の改修〉  
 設計：公会堂：中原・司JV、楽屋棟：富居建築設計  
 施工：公会堂：盛永・新谷・東成JV、楽屋棟：盛永組

来歴

1958年に旭川市総合庁舎と共に公会堂として供用開始された。同時期に旧・旭川市青少年科学館、旧・石狩川治水学習館など、総合庁舎に影響を受けたデザインの鉄筋コンクリート造公共施設群が常磐公園周辺に整備されている。多くの市民に親しまれて来た施設を永く使いたいとする市民の要望を受けて、2013年の改修に至った。構造の強化と共に、座席を広めの旭川家具に換え楽屋も増床され、使いやすい中規模ホールとして利用されている。